

3312 久楽迎古は何者：旅行家・冒険家・講演

キーワードの一つ、旅のスタイルは「ひとり旅」。しかも、2～3ヶ月と長期の旅が多い。
ご縁、出会い、出来事であれ、自然であれ、動物であれ、初めて見る世界は感動、ぜひ記録に残したい。
これは自然な気持ち。画像や文章で。しかし、上手に記録したい。52歳、専門学校入学。

今回の講演で使っていた言は、

タイトル「美しい地球をあなたに伝えたい」。25年間かけて地球6周分24万キロ、40カ国の地球を一人行脚。
ユニークな実体験を通して、現代人が忘れかけていた原風景を日本の伝統文化である和紙に再現し、
独特の「夢絵」を創作されています。「夢絵」の実物数点とDVDを見ながら、自然の大切さを考えます。

～～過去の講演の中から、大学生対象、講演後の某教授の文章～～

人はいつも夢を思い、それを追いかけて、正夢に叶えようと前に進む。
これを50歳になるや、築き上げた地位や名誉をすべて捨ててゼロから始めたのだから、すごい。
この奇想天外ともいえる自己の実体験、地球5周20万キロ40か国を
映像と語りで、聴衆の皆さんに渾身の力で伝えていただいた。タイトル「美しい地球を守りたい」

- ① 自然の美しさー自然を敬い、感謝し、大切に
「人間は地球の間借り人」 山はみどり、野に花、人にはこころ。
- ② 旅のスタイルは、ひとり行脚の長期。
- ③ 見えてきたもの、教えられたこと、気づいたこと＝夢絵の世界。
- ④ 今時点、心がけていること。大切にしていること。
- ⑤ 夢は大きく、大志、世界紀行へ ⑥ 禅寺へ、生き方の再点検
- ⑥ 自分を支えた環境 の7部構成だった。

久楽氏は、人間は「地球の間借り人」という。西洋観における「自然対人間」の克服ではなく、
東洋観における共生の考え方、つまり祖先から受け継ぎ、次世代に受け渡す、切れ目のない「環境や自然」を育む
人間のこころが大切、と説く。これが、ひとり行脚の旅、作品づくりの大きな源泉となり、
ひとり行脚において「心で感じた一瞬をフィルムにスケッチ」した夢のような情景を絵に表す「夢絵」の
発想となる。夢を追うロマンとしての夢絵を、浮世絵、錦絵と並べたのは、なかなかしゃれている。

夢絵の世界から見え、教えられ、気づいたことから、今、心がけ、大切にしていることを

「か・き・く・け・こ」と端的に表現。

すなわち、「か：感動する心」「気：気力の気」「く：苦勞」「け：健康」「こ：行動と実践」。

また、多様で豊かな経験から「Be honest! Keep learning! Keep rules! Fight!」「チャレンジはこれからが本番」

「蝸牛、登らば登れ 富士の山」「やばいぞ！人間力」

「人間は地球の間借り人、今一度、意識して子や孫に残すものは何か」といった

ためになる言葉が聴衆に投げかけられた。

このような貴重な言葉は、自身が廃業し、蹉跎しかけたが、見事に心機一転して立ち直り、

学生時代からの果たせなかった夢「海外雄飛」の体験から生まれた。

氏は、海外雄飛が、自身に潜伏していた感性、五感を爆発させた、という。

しかし、この頂点に至るまでには、鎌倉の禅寺・円覚寺での十年の座住があり、学生時代に所属した京都全学生

ESS 連盟での活動、企業人や起業家と、多様な経験の伏線があった。

日本文化の原点であり、原風景でもある京都で生まれ育った、という幼年時代の環境と体験が重なり、

和紙と写真の新しい組み合わせ、和魂洋景を発想する。これが今日の久楽迎古^{くら-く げ-ふる}の芸術基盤となっている。

締めくくりにあたり、「人生再点検、どう生きるか。気づきやひらめきが必要です。

人生に正解などない」と喝破された。

映像と語りによる講演が終了し、聴衆の学生より質問があった。

これに対して、丁寧に、分かりやすく、熱意をもって、説明され、学生も熱心に聞き入っていた。

すべてのプログラムが終わり、久楽迎古^{くら-く げ-ふる}氏へのお礼として、聴衆のみなさんが満場の拍手を持って応えた。

感銘深い講演に対して、聴衆にあらかじめ配られたアンケートが、約 60 名分集められた。

そのおもなものについて紹介しよう。

映像については「すごくきれいです。自然は不思議な美しさを持っている。人工的でなく、純粋な美しさだと思う」

「久楽氏が教えてくださったのは、どんどん外に出て行動することが大事。感性や直感を大事にし、それをもとに行動すれば、未来は見えてくる。就職前の僕たちに非常に重要なことを教えてくださった。

ありがとうございました」

生き方については、「気力×能力」の考え方は、とても素晴らしいと思いました。

「始めなければ始まらない」という言葉がとても心に残った。

「自分が如何に無駄な時間の使い方をしていたかと思うと胸が痛くなる」

「今日の講演会は、自分を見つめ直すいい機会となった。残りの学生生活を有意義に

使えるよう、心がけていきたい。今の時期に土台をしっかりつくり、

チャンスを逃さないようにしたい」など、その他、感動に満ち溢れたアンケートが寄せられ、聴衆のみなさんは、

それぞれに久楽氏の講演から、何かをしっかりとつかみ取り、これからの人生において

力ある時間の使い方を考え直したようである。

このような多数のアンケートに応じて、久楽氏からの「お礼とメッセージ」を紹介し、締めくくりにしよう。

「お礼とメッセージ」

若々しく柔軟な感性を持った諸君にお目にかかり、大変刺激を受けました。

素晴らしい学校であり、おおいに誇りを持ってください。

また、後輩たちが誇りを持てる先輩になってください。可能性大です。

感想も書いていただき、また、ポスターの自主制作も感謝、ありがとう。

感想をまとめました。チェックしてください。

ご縁、出会い、出来事であれ、自然であれ、動物であれ、書物であれ、

心開いて、本気で学び、チャレンジすると、きっと、道が見えてきます。

時間の使い方、投入時間、情熱と気力、意気が大切。自分の甘さとの戦い。

知っていることとやれることとは違う。実践して体感。

好きな道を発見するには、いろいろ試練を体験することで見えてきます。

大学生生活は、絶好の機会。今しかない。いい心の癖をつけておく。

楽な道と厳しい道、どちらを選択するか。今は厳しい道を選択してほしい。

決めるのは君自身。よく観て、よく考えて、実践してほしい。

本気でやれば、夢は叶う。夢は創るもの。自分を信じて一山、越えてほしい。

人生をマラソンに例えるならば、多くの他のランナーがライバルでなく、

強敵は、いま一人の自分自身。鍛える。ものごとには流れやタイミングがある。

依頼心ではなく、自立と自律。待ったなし。言い訳なし。後悔なし。今。

学生生活で何ができるか。今だからできることがある。弱い心に負けない。

失敗を恐れない。やらないリスクより、やったリスクの方が小さい。若者の特権。

いろいろ創意工夫して、自分の道を見つけてください。

未来を考える人に、未来が微笑む確率が高い。

良い種をまく。未来が育つ。夢も叶う。今に全力投球。

かたつむり
蝸牛、登らば登れ、富士の山

夢絵作家 久楽迎古

今、身体と時間の使い方が課題。今年、喜寿。どんな老人だろうと思われるかもしれないが。

現役のバリバリと自負している。注意する領域に突入していることは認めざるを得ないが、人生まだまだ。

後述するが、大きな講演は3年ほどしていない。今回の準備に全力投球したい。

腹の足し、体の足し、心の足し。一人旅は国内中心だが、素材収集、取材活動は継続中である。

今年3～4月、北海道・函館から京都まで、のママチャリ日本縦断の旅を完歩完走。

先週も奈良からお目にかかりたい陶芸家がおられる奈良・水間町^{みま}へ、ママチャリで。厳しい峠が二山あった。

その後、柳生、笠置、加茂、無事アトリエには、深夜帰宅。

今年は年初から「びわいち」（琵琶湖一周）を何度か、行動範囲は近畿圏だが、人生まだまだ

チャレンジしたいと思っているが、そろそろ活動は八掛け、無理をしない方がと

人様からアドバイスを受けた。心して、できるときにできることを。